

文部科学大臣  
末松 信介 様

「阿蘇」の世界遺産暫定一覧表への  
記載に関する

## 要望書

令和4年(2022年)1月20日

阿蘇世界文化遺産登録推進協議会

(熊本県、阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村)

## これまでの取組み

「阿蘇」の世界文化遺産登録推進については、価値、保存など様々な観点から、助言、指導をいただき誠に感謝申し上げます。

平成20年に、「阿蘇」が暫定一覧表候補の文化資産としてカテゴリーI aに位置づけられて、今年で14年になります。

この間、平成20年提案当時に御指摘いただいた資産の保護措置を進めるため、重要文化的景観をはじめ文化財保護法による文化財の指定、選定を進めて参りました。

また、学術委員会や国際ワーキンググループを設置し、世界文化遺産としての価値の磨き上げや資産の保存策の検討などを行って参りました。

## 新たな提案書

本日は、これまでの取組みの集大成として、あらためて取りまとめた提案書を持参しました。

阿蘇の価値（OUV）は、日本の循環型農業の伝統が、巨大なカルデラに働きかけた姿を留めることにあり、名称を「阿蘇カルデラー草地とともに生きてきたカルデラ農業景観」としました。

その価値は4つのアトリビュートで構成されています。

- ①カルデラ地形の区分に応じた土地利用のパターン
- ②野焼き・放牧・採草の草地管理システム
- ③豊富な湧水等の治水・利水システム
- ④火山信仰及び開拓に関わる信仰や伝承

であり、これらが連関して、世界で阿蘇にしか見られない壮大なカルデラ農業景観を形成しています。

## 課題への対応

昨年4月に要望活動を行った際に、萩生田前大臣から、「世界的な比較検討」及び「景観への配慮・保全」の2点について御指摘をいただきました。

まず、「世界的な比較検討」については、4つのアトリビュートを、類似した海外の31資産及び国内7地域との比較を行いました。その結果、すべてを備える資産は阿蘇以外に存在しないことを確認しました。

次に、中九州横断道路など「景観への配慮・保全」については、国土交通省や林野庁、環境省が参画した「阿蘇景観保全会議」を設置しました。世界遺産登録に向け、景観に配慮した公共事業などの推進を目的としており、暫定一覧表掲載後は、遺産影響評価（HIA）に対応する協議体として活用することも考えています。

また、新エネルギー施設等への対応についても、関係市町村・関係部局の連携を強めながら、景観を守る取組みを進めています。

今後、暫定一覧表に記載いただくことで、県民や関係機関の間に、「阿蘇」を世界文化遺産に登録するという機運が高まり、これまで以上に景観保全などの課題へ対応することができると考えています。

## 世界遺産への貢献

阿蘇カルデラでは、草原の管理を行うことで、千年以上も半自然草地を維持し生業を営み続けています。

また、アトリビュート①から④を備えた壮大な農業景観は「阿蘇カルデラ」以外に存在しません。

これらのことから、阿蘇カルデラは、自然との共生を表す我が国が世界に誇る貴重な宝であり、人類社会や環境の持続可能性、世界遺産の多様性に貢献するものです。

### 今後の取組み及び決意

当協議会では、引き続き、阿蘇世界文化遺産学術委員会を中心として、国際専門家ワーキンググループや若手研究家の知見も交えながら、阿蘇カルデラの価値、資産や緩衝地帯の範囲、保存管理の手法などの深化を図るとともに、シンポジウムの開催など認知度の向上も図って参ります。

今後、阿蘇の世界遺産登録に向けては、必要なあらゆる措置について、県、地元市町村及び関係者が連携し対応して参る所存ですので、引き続きご指導の程よろしくお願い申し上げます。

### 暫定一覧表への記載

「阿蘇」の世界遺産暫定一覧表への記載について御配慮賜りますよう、ここに要望いたします。

令和4年（2022年）1月20日

阿蘇世界文化遺産登録推進協議会

熊本県知事	蒲島 郁夫
阿蘇市長	佐藤 義興
南小国町長	高橋 周二
小国町長	渡邊 誠次
産山村長	市原 正文
高森町長	草村 大成
南阿蘇村長	吉良 清一
西原村長	日置 和彦